

=====

本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の皆様にお送りしております。

=====



◆ NEE Mail Magazine 99号 ◆

-----2017-4-3◆◇

卯月四月。新学期のスタートです。

学校のよいところは季節があることです。桜吹雪の中の入学式というのが古典的な新学期のイメージですが、四月といっても、もう泳げる沖縄からまだ残雪のこる北海道まで学校の外の風景は多様です。でも、新しい教科書、新しい生徒たちを前に新しい気持ちでスタートできるという面では、学校が一番季節を感じることができる職場かもしれません。とはいえ、昨今の校務多忙な現場、なかなか気持ちの切り替え、仕事の準備なども大変さがましているのも事実でしょう。

そんな季節、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【 1 】最新活動報告

3月の活動、ネットワークメンバーの活動を報告します。

【 2 】イベントカレンダー

夏の教室の情報、部会の案内、関連団体の活動などを紹介します。

【 3 】授業のヒント

【 1 】最新活動報告

3月に行われた活動、ネットワークメンバーの活動などを報告します。

■年次大会(「主権者教育:経済の視点から」)を開催しました。

日時: 2017年3月25日(土) 13:00~16:30

場所: 京都学園大学太秦キャンパス N305 教室

内容の概略:参加者 51名でした。

(1)主催者挨拶のあと、大杉昭英先生(国立教育政策研究所)の「主権者教育の新たな課題と経済教育」のタイトルで問題提起の講演がありました。

大杉先生は、主権者教育に求められているのは、市民として政治家や政治階層が提示する公共政策の適不適を判断する力をそだてることであると指摘されました。

その力を育てるためのヒントとして、サンクコスト概念を理解しているかどうかの質問群と、価値判断(経済倫理)を伴う事例(利用者の少ない公共交通の廃止問題)を提示されて、経済学習からの主権者教育の課題を提起されました。

(2)この提起をうけて、金子幹夫先生(神奈川県立平塚農業高校初声分校)から「二つの選挙モデルを通して投票の意義を考える体験型の授業」の提案がありました。

この授業は、生徒会長の二つの選挙シミュレーションを行わせるもので、多数派の利益 vs.少数派の利益、現在の利益 vs.将来の利益を選択させる仕掛けがくみこまれた二つの選挙を行わせるというものです。生徒は、ここから、現在の選挙が多数派(高齢者)に有利になっていること、投票は未来への選択であることに気づいてゆきます。二つ選挙を踏まえて、次は政党のマニフェストの分類、吟味を行わせるという内容の授業で、模擬投票を有効につかい、時間軸の考えを主権者教育に導入し、投票が未来への選択に通じることを実感として理解させようとする意欲的な授業提案です。

(3)二つの発表をうけて、進行役の新井から、「主権者教育に経済教育からの風を」というまとめの話があり、それらを踏まえて質疑、討論が行われました。

(4)後半は、升野伸子先生(筑波大学附属中)による「超少子高齢化と年金・社会保障の在り方」という、生徒が政策内容を理解して、比較選択ができるようになるための教材の提案がありました。

この教材では、年金をシンプルに40年積み立てて20年給付をうける仕組みとモデル化して、自分たちなりに効率と公正の観点から理想の年金を考えさせるというものです。そこから、給付の中には税金や企業からの拠出金がいっていること、高齢化のなかで持続的な年金制度にするための条件はなにかを発見させる授業ができるようになっています。

質疑では、現実の年金制度とモデルとの違いをどう説明するか、政策選択の基準となる効率とか公正をどう理解したらよいかなどの質問やそれに対するコノミストの回答がありました。

(5)今回の年次大会は、政治学習の一環と捉えられていた主権者教育に対して、経済教育の貢献や重要性が認識されてゆく契機となる問題提起や実践報告がなされ、ネットワークとしての取り組みの課題が見えてきた大会となりました。

内容や質疑の詳細に関しては以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/symposium/201703Sympo.report.pdf>

■宮尾先生の実践がアップされています

ネットワークメンバーでアメリカ滞在中の宮尾尊弘先生(筑波大学名誉教授)からディベートを活用したイシュー中心型の授業の報告が届きました。

今回の授業は、九州大学カリフォルニア・シリコンバレーオフィスでの学生たちのための英語ディベートです。その概要は以下にアップされていますので、ご参照ください。

<http://miyao-blog.blog.so-net.ne.jp/2017-03-22>

ディベートのやり方については、ビデオ「ディベートの手引き」

<https://youtu.be/4V9tlXwtypo>

【 2 】イベントカレンダー

* イベント予定です。

■夏の経済教室の日程が一部変更されます。

東京証券取引所と共催で毎夏に行われている「夏休み先生のための経済教室」の日程、場所に関しては3月号でお知らせしましたが、名古屋会場の日程が変更になり、今年は8月の後半に開催いたします。会場は変更ありません。

また、講師の先生方や企画の内容が決まりました。

(1)スケジュールは以下の通りです。

8月7日、8日 大阪中学向け、高校向け 会場：国民会館

8月14日、15日 東京高校向け 会場：東証ホール

8月17日、18日 東京中学向け 会場：東証ホール

8月21日、22日 名古屋中学、高校向け 会場：ウインクあいち

(2)主な企画と講師の先生方は以下のとおりです。(敬称略です)

・10年目の記念公演を次の四人の先生にお願いしています。

吉川 洋(東京大学名誉教授、立正大学教授):東京高校向け

村田晃司(同志社大学法学部教授):東京高校向け

大竹文雄(大阪大学社会経済研究所教授):東京中学向け

鹿野義昭(同志社大学経済学部教授):名古屋高校、大阪高校向け

・経済学からの解説講座、歴史シリーズ、金融講座を準備しています。

小巻泰之(日本大学)、野間敏克(同志社大学)、中川雅之(日本大学)、
篠原総一(京都学園大学)、鈴木深(東京証券取引所)の各先生方が担当
されます。

・新学習指導要領関係の解説

橋本康弘(福井大学)、栗原久(東洋大学)の両先生が担当予定です。

・エコノミストと授業を作るなど実践提案も多く用意しています。

(3)内容の詳細は確定次第、ネットワークのHP、東京証券取引所のHPに掲載
予定です。

* 定例部会のお知らせです。(既報、開催順)

■東京部会(No.90)を開催します

日時:2017年4月7日(木) 19時00分~21時00分

場所: 日本大学経済学部本館 2 階会議室

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo090flyer.pdf>

■名古屋部会(No.11)を開催します

日時: 2017 年 4 月 22 日(土) 15 時 00 分～17 時 00 分

場所: 椋山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya011flyer.pdf>

■大阪部会(No.53)を開催します。

日時: 2017 年 5 月 13 日(土)

場所: 同志社大学 大阪サテライト(予定)

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka53flyer.pdf>

■札幌部会(No.17)を開催します

日時: 2017 年 5 月 20 日(土) 14 時 30 分～17 時 00 分

場所: キャリアバンクセミナールーム

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo017flyer.pdf>

* 関連団体の報告です。

・生命保険協会作成の中高向けの社会保障に関する授業教材と指導マニュアルがネットワークの HP にリンクが張られています。ご参照ください。

<http://www.econ-edu.net/project/develop/index.html>

【 3 】授業のヒント

■授業はじめの四月に基本の確認を

一年の授業初めの4月に、今年はこれを目標にしようとする先生は多いと思います。

目標は授業のテーマであるかもしれないし、授業の方法に関してかもしれません。テーマでは年次大会で取り上げられた選挙や財政、社会保障などを今年は重点を置いて教えるぞというのもよいでしょう。時事問題を中心に解説しようというのもありです。

そんな目標のなかに基本事項を絞って徹底的に教えようという目標をぜひ入れてほしいと思います。

基本事項とは何かというのがここでは問題ですが、経済でいえば、出発点としての希少性、市場理解のための需要供給の法則、交換や国際経済の理解のための比較優位など、かなり数は限られます。

基本が大事ということをなぜ強調するかというと、私たちは正しく「間違える」からです。その「間違い」が政策として大手をふって登場することがあるからです。もちろん、立場によってはそれが「間違い」とは言えないものもあるでしょう。

とはいえ、トランプ政権のように、貿易不均衡の是正を前面に出して取引を強要するような政策に対して正しく判断するには、基本にもどって取引の原理をしっかりと身につけていることが大切なこととなります。

自戒をこめて言えば、私たち教員は教えすぎます。アメリカの経済学者カプランは『選挙の経済学』（日経 BP 社）のなかで、「学生たちは大事な点以外のすべてを忘れてしまっただろう。もしあなたが学生たちにいくつかの基本原則を叩き込むことに失敗するなら、不思議なことに、彼らは全く何も習得しない可能性がある」と指摘しています。

同書で、カプランはさらにこう言います。「ある話題に関する一般的な考え方と経済学的な考え方を対比させることから始めるべきです。…深いインプリケーションを含んだ結論、例えば、比較優位、価格統制の効果、労働節約的な技術革新の長期的利益といった結論をいくつか選択し、それを語りつくすべきである」とも言っています。

カプランの言は、大学レベルの経済学の講義の話ですが、同じことは日本の中高でも言えるはずで。

新学期というのは、生徒も教師も、何でもできるような不思議な高揚感に満ちた季節ですが、だからこそ、目の前の生徒たちに伝えるべき基本事項は何なのかをあらためて確認することが大切と思うのです。（新井）

【 4 】編集後記（みみずのたはこと）

「われわれは公民として病みかつ貧しい」というのは柳田國男の『明治大正史世相編』の最後の言葉です。

主権者教育に関してリサーチをしているなかでこの言葉に出会ったことは衝撃でした。豊かになった現在の日本でこの言葉がどこまで有効性があるか、昨今の内外の政治の動きや社会の現状を見ていて考えさせられるものがあります。

その意味でも、公民教育に対する経済教育の役割は大きいと年次大会に参加して思いました。（新井）

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇